

臨床研修修了にあたり

臨床研修終了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 嶋田 ひかり

臨床研修Aコースにて研修をしております研修歯科医の嶋田ひかりと申します。研修も残すところ3カ月となり、思い返してみるとアッという間に時が過ぎてしまったのをしみじみと感じている今日この頃です。せっかくAコースで研修させていただいておりますので、ここでは私が臨床研修Aコースに在籍して感じたAコースの良さについて書かせていただきたいと思います。研修先や進路に悩む後輩たちへ少しでも参考になれば幸いです。

Aコースの特徴の1つ目として、1人の患者さんにかかる時間が十分にあることが挙げられます。開業医等では限られた時間のなかでパフォーマンスを求められることがあり、研修医の実力では自分で納得ができるレベルまで診療の質を持っていくには限界があります。もっとこうしたい、こっちのほうがいよくなるのに、といった思いを抱えながら患者さんにお帰り頂くことがないので自分の診療レベルを都度確認しながら診療を行うことができました。今はうれしいことに1診療にかかる時間がだんだんと短くなり、技術面も少しずつですが向上しているという実感を得られています。

2つ目として、大学病院という恵まれた環境のおかげで上記の理由で省略されやすい診療ステップや、使用する材料の選択を限られることがない

こと、また調べたり相談したりしやすい環境であるため事前の予習検討をしっかりと行え、自分が思う症例へのベストを尽くせることが挙げられます。わからないことや困りごとがあると、上級医の先生がフォローしてくださったり、親身に相談にのってくださったりしたのでよりよい治療計画、目標を立てエビデンスに返り納得しながら診療に取り組むことができました。

11月に行われた総合歯科学会に参加する機会をいただいたのですが、そこで大会長の先生に「やっぱり新潟大学の研修のレベルは高いね」と声をかけていただいたのが今でも印象に残っています。

臨床技術は今後経験を積み重ねて上達していくものかもしれませんが、患者さん特有の口腔に対するアプローチの仕方、などといった症例への考え方は事前の十分な予習を前提にこういった恵まれた環境のなかで培われ、今後の歯科医師人生の基盤になる財産であると日々の診療を行いながら確信しています。

最後に、これまでご指導していただきました先生方や衛生士さんにこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。たくさんの支えがあって研修できることに感謝しながら残りの研修医期間も自己研鑽に努める所存です。歯科の学生でもなく、歯科医師でもなく、研修歯科医として学べるこの期間と立場を使って貪欲に励んでいきます。

臨床研修修了にあたり

B-1 コース臨床研修歯科医 植 田 優 太

この度歯学部ニュースの執筆を賜りました、本学52期 Bコース研修医の植田優太です。大学卒業後は4月から9月まで新潟大学医歯学総合病院歯周病科にて、10月からは上越市にある新潟労災病院にて研修をさせていただいております。労災病院での研修がスタートして2ヶ月近くたった11月末に執筆しておりますが、だんだんと寒くなり、上越で過ごす初めての冬に恐々としております。

今までの研修生活を振り返りますと、前半の新潟大学医歯学総合病院での研修では、体系的な歯周治療を経験することができました。担当した患者さんの病態や特徴を分析し、治療計画を指導医とディスカッションをしながら立案、治療を行いました。そして自ら立てた治療計画や実行した治療の経過をパワーポイントにまとめていったことで、体系的な歯周治療の効果を学ぶことができました。一人の患者さんに対してとことん時間をかけて検討する機会を頂けたことは、何にも変え難い経験であるとともに、大学病院での研修だからこそできたことなのではないかとも感じております。技術面では、指導医からの確かなアドバイスをもらいながら診療できたこと、自ら歯周外科治療を行う機会を頂いたことはとても貴重な経験だったと感じています。また先生方の診療を見学する機会を多くいただいたことで、技術や治療計画な

どで自分では気がつかないような視点・考えを得ることができました。

大学病院での研修があったという間に修了し、名残惜しさを感じながら10月から新潟労災病院での研修がスタートしました。大学病院での研修とは異なり、圧倒的な量の患者さんとスピーディーな診療が求められる状況がスタートしました。労災病院では主に入院または外来での智歯抜歯、手術、周術期口腔機能管理、入院患者さんの一般歯科治療など様々な症例を経験させていただいています。

自ら手を動かす機会が多くなり、「うまくできない場合をどう解決するか」を考えながら診療を行うようになりました。「歯医者とはとにかく手を動かさないとダメだ」という言葉を指導医に言われましたが、そのためには事前の準備や手技の予習が重要なのだと改めて気付かされました。

そうして予習や経験から学んだことをもとに診療に取り組み、抜歯などが上手にできた際には大きな達成感を得ることができました。

残りの研修生活においても今まで学んだことを活かし、研鑽に励みながら、有意義な研修生活にしたいと考えています。

最後になりますが、ご指導いただきました先生方、衛生士さんに感謝申し上げます。研修医として一年間学んだこと忘れず、今後も歯科医師として日々努力してゆきたいと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございました。